2024年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

こども未来学科
2年生

学校法人こおりやま東都学園

こども未来学科　2023年度生　履修一覧

1年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
外国語、体育以外の科目	憲法	
	情報処理	
	ポケット・ゼミ	
外国語	英語	
体育	健康・スポーツ理論	
	健康・スポーツ実技	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	●
	教育原理	●
	子ども家庭福祉	●
	社会福祉	●
	社会的養護Ⅰ	●
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	●
	子どもの理解と援助	
	子どもの保健	●
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	
	保育内容総論Ⅰ	
	健康指導法	
	人間関係指導法	
	環境指導法	
	子どもの生活と遊び（表現と運動）Ⅰ	
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅰ	●
	子どもの生活と遊び（感性と創造）	●
	子どもの生活と遊び（言葉と児童文化財）	●
	乳児保育Ⅰ	
	乳児保育Ⅱ	
保育実習	保育実習指導Ⅰ	●

2年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保育の本質・目的に関する科目	子ども家庭支援論	
	保育者論	
	医療保育総論	
	多職種連携総論	
保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	
	子どもの食と栄養	●
	発達障害児の理解と対応	
保育の内容・方法に関する科目	言葉指導法	
	表現指導法	
	子どもの健康と安全	
	障害児保育	
	社会的養護Ⅱ	●
	子育て支援	
	居住環境学	
	感覚統合入門	
	在宅保育	
	子どもの生活と遊び（表現と運動）Ⅱ	
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅱ	●
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅲ	
	入門臨床美術	
保育実習	保育実習Ⅰ	
	保育実習指導Ⅱ	
	保育実習Ⅱ	
	保育実習指導Ⅲ	
	保育実習Ⅲ	
総合演習	保育実践演習	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子ども家庭支援論 ※実務経験のある教員の授業科目		小坂　徹 知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			小坂
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

現在の日本社会における子育て家庭に対する支援の意義と必要性について理解し、保育士による子ども家庭支援の意義と基本について学ぶ。また、その体制と展開、現状と課題についての理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①子ども家庭支援の意義と役割について理解する。 ②保育士による子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ⑤子ども家庭福祉に関する現状と課題について説明できる。	考え抜く力 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】 毎回の授業の予習課題の励行と事前提出

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	この科目を学ぶ必要性と授業の進め方、履修上の注意点について理解する。	個人
2	子ども家庭支援の意義と必要性	子ども・家庭をめぐる環境変化と現状、支援の意義について理解する。	個人
3	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と範囲、機能と専門性について学ぶ。	個人
4	保育の専門性を生かした子ども家庭支援	保育所・認定こども園の特性、保育の専門性を生かした家庭支援について学ぶ。	個人
5	子どもの育ちの喜びの共有	保護者と協働するための子どもの育ちの喜びの共有について理解する。	個人
6	子育てを自ら実践する力の向上	保護者の「子育てを実践する力」を支持するための方法について学ぶ。	個人
7	保育士に求められる基本的態度	家庭支援において保育士に求められる基本的態度について理解する。	個人
8	家庭の状況に応じた支援	保護者の就労状況や子ども、保護者自身の問題等状況に応じた支援について学ぶ。	個人
9	子育て家庭に対する支援の展開Ⅰ	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について学ぶ。	個人
10	子育て家庭に対する支援の展開Ⅱ	子育て支援施策・次世代育成支援施策について学ぶ。	個人
11	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ	子ども家庭支援の内容と対象について理解する。	個人
12	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ	保育所等を利用する子育て家庭への支援について学ぶ。	個人
13	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ	地域の子育て家庭への支援について学ぶ。	個人
14	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ	要保護児童およびその家庭に対する支援について学ぶ。	個人
15	子ども家庭支援に関する現状と課題	制度・行政上、相談体制、施設、社会の意識等について理解する。	個人

期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 70% 受講態度 10%	授業への貢献 20%

【教科書】	最新保育士養成講座第10巻「子ども家庭福祉支援」(全社協)
【参考書】	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎回の授業の予習課題の励行と事前提出		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育者論 ※実務経験のある教員の授業科目		渡邉　佐江子 保育園（保育士）16年勤務			渡邉
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

保育者の役割や保育士の責務を理解する。さらに、専門職として子どもを見る柔軟な視点を養い、生涯成長する保育者であると認識することを目的として、その向上のための理解を深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育者の役割と倫理について理解する。	前に踏み出す力
②保育士の制度的な位置づけを理解する。	考え抜く力
③保育士の専門性について考察し、理解する。	チームで働く力
④保育者の連携・協働について理解する。	発達援助技術
⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。	生活援助技術

【履修上の注意】実習を振り返りながら、グループワークや意見発表に積極的に参加すること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。	個人
2	保育者の仕事と役割	保育者の仕事について確認し、それぞれの保育現場での仕事と役割について理解する。	個人
3	保育者の制度的位置づけ	各保育現場の保育者の位置づけと資格・要件・欠格事由等について理解する。	個人
4	保育者の倫理と子どもの権利擁護	保育者の倫理を再確認し、保育場面における子どもの権利擁護とは何かについて事例を通して考える。	グループ
5	保育者になるための学び	保育を実践する者への意識転換と保育者になるための道筋について理解する。	個人
6	保育者に求められる資質	保育者に求められる資質、期待される役割について理解し、学生時代に学ぶべきことを考える。	個人
7	学びあう専門家としての連携と協働①	職員間の連携・協働について考え、理解を深める。	グループ
8	学びあう専門家としての連携と協働②	専門職間および専門機関、関係機関との連携・協働について理解する。	グループ
9	保育者の資質向上とキャリア	資質向上のための研修、キャリア形成、チームとしての保育とリーダーシップについて理解する。	個人
10	子どもの育ちの危機と子育て支援	子どもを取り巻く生活環境から子どもの育ちと保護者の子育てを考え、保育者としての役割を理解する。	個人
11	現代社会の変化と保育者の仕事や課題	映像から現代の子育ての現状を知り、保育者の役割について考える。	個人
12	これからの保育者に期待されるもの	おおよそ5項目について取り上げて具体的に理解する。	個人
13	資料に見る保育者の姿	社会の変化と保育者の役割、働く保育者の実態から学び、その専門性とライフコースについて考える。	グループ
14	保育者の育ち① ～保育者になる人へのメッセージ～	テキストのコラムからグループ討議、意見交換を行い、保育者の育ちへの理解を深める。	グループ
15	保育者の育ち② ～保育者になる人へのメッセージ～	テキストのコラムからグループ討議、意見交換を行い、保育者の育ちへの理解を深める。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 10%	授業への貢献 10% レポート 20%

【教科書】	今に生きる保育者論第4版（みらい）
【参考書】	保育原理ー保育原理/乳児保育（全国社会福祉協議会）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎回の授業の予習と課題の達成		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子ども家庭支援の心理学	佐藤　明宏 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

乳幼児期だけでなく生涯発達について概観し、子どもと関わる大人の発達と課題について学ぶ。さらにそれぞれが課題を抱えて構成されている家庭・家族の理解を深め、現状と課題について学ぶ。さらに、こうした中での子どもの精神保健とその課題についても学び、理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①生涯発達について学び、関わる保育者自身や保護者の理解を深める。 ②家族・家庭の理解を深める。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。	考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術

【履修上の注意】毎回の授業の予習と課題の提出を怠らないこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	シラバスとテキストを概観し、講義内容、進め方、評価方法について理解する。	個人
2	生涯発達Ⅰ　乳幼児期から学童前期	大きく乳児期、幼児期、学童前期について学び、理解する。	個人
3	生涯発達Ⅱ　学童後期から青年期	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。	個人
4	生涯発達Ⅲ　成人期・老年期	大きく成人期と老年期に分けて学び、理解する。	個人
5	生涯発達Ⅳ　保育者としての生涯の発達	保育者としての発達の特徴について学び、発達課題とその達成について理解する。	個人
6	家族・家庭の理解Ⅰ 家族家庭の意義と対応	家族・家庭の定義、歴史、発達について学び、理解を深める。	個人
7	家族・家庭の理解Ⅱ 親子関係・家族関係の理解	親子関係・家族関係と子どもの発達への影響と対応について学ぶ。	グループ
8	家族・家庭の理解Ⅱ 子育ての経験と親としての育ち	親の発達について学び、その発達を支えるための保育者について考える。	グループ
9	子育て家庭に関する現状と課題Ⅰ 子育てを取り巻く社会環境	周産期と子育て期の社会的状況について学び、理解を深める。	個人
10	子育て家庭に関する現状と課題Ⅱ ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの定義、変遷、仕事と子育ての位置付けについて学ぶ。	個人
11	子育て家庭に関する現状と課題Ⅲ 多様な家庭とその理解	現代の家庭の変容と多様な家庭の形態について学ぶ。	個人
12	子育て家庭に関する現状と課題Ⅳ 特別な配慮を要する家庭	特別な配慮の必要性を理解し、家庭・家族への支援を学ぶ。	グループ
13	子どもの精神保健とその課題Ⅰ 子どもの生活・生育環境とその影響	家庭、地域、社会状況の変化とその影響について学び、理解する。	グループ
14	子どもの精神保健とその課題Ⅱ 子どもの心の健康に関わる問題	発達、ことば、摂食の問題を中心に考える。	グループ
15	子どもの精神保健とその課題Ⅲ	排泄、睡眠、習癖の問題を中心に考える。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 受講態度 20%	レポート 20%

【教科書】	最新保育士養成講座第6巻「子どもの発達理解と援助」(全社協)
【参考書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの食と栄養(1/2)	辻　匡子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

健康な生活を支えるための食生活の基本的知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】

①健康と食生活ならびに子どもの成長と発達について理解し、説明できる。
②栄養の種類と働きが理解できる。
③消化吸収が説明できる。
④食事摂取基準について理解できる。
⑤食育基本法を理解して、子どもの食教育の進め方ができる。

【受講して得られる力】

発達援助技術
生活援助技術
相談支援技術

【履修上の注意】教科書を忘れずに持参しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	心身の健康と食生活	健康とは何かを考える。	個人
2	心身の健康と食生活	心身の健康増進と食生活について理解する。	個人
3	食生活の現状と課題	栄養調査から見た食品、栄養素等摂取状況について知る。	個人
4	食生活の現状と課題	栄養調査から見た食品、栄養素等摂取状況について知る。	個人
5	食生活の現状と課題	生活リズムと課題について理解する。	個人
6	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
7	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
8	栄養に関する基本的知識	職員間の連携と協働を理解する。	個人
9	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
10	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
11	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
12	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
13	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
14	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
15	献立作成と調理の基本	基本の作成方法を理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 授業への貢献 10%

	発育期の子どもの食生活と栄養(学建書院) ビジュアル食品成分表(大修館書店)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業で提示された内容を調べておく。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの食と栄養(2/2)	辻　匡子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

健康な生活を支えるための食生活の基本知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】

①前期で学んだ栄養学の基礎的知識をもとに、子どもの年齢や発育・発達過程における食生活との関連性が理解できる。

②子どもの発育・発達に応じた調理形態の変化や味付けの基本、調理の技術を実践し、習得できる。

【受講して得られる力】

発達援助技術
生活援助技術
相談支援技術

【履修上の注意】教科書を忘れずに持参しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	乳幼児期の心身の特徴と食生活	乳幼児期の食行動について理解する。	グループ
2	乳幼児期の心身の特徴と食生活	乳汁栄養について理解する。	グループ
3	乳幼児期の心身の特徴と食生活	調理実習を通して人工栄養について理解する。	グループ
4	離乳の意義と実施	離乳の必要性についての知識を身につける。	グループ
5	離乳の意義と実施	調理実習を通して離乳食についての知識を身につける。 (離乳食の実習①)	グループ
6	離乳の意義と実施	離乳食作りの留意について理解する。	グループ
7	離乳の意義と実施	調理実習を通して離乳食についての知識を身につける。 (離乳食の実習②)	グループ
8	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の成長と発達について理解する。	グループ
9	幼児期の心身の発達と食生活	調理実習を通して幼児期の食事についての知識を身につける。 (幼児期の食事の実習①)	グループ
10	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食について理解する。	グループ
11	幼児期の心身の発達と食生活	調理実習を通して幼児期の間食についての知識を身つける。 (幼児期の食事の実習②)	グループ
12	学童期の心身の発達と食生活	学童期の身体・精神的発達について理解する。	グループ
13	学童期の心身の発達と食生活	学童期の食生活と学校給食について理解する。	グループ
14	学童期の心身の発達と食生活	子ども虐待の予防と対応を理解する。	グループ
15	まとめ	講義のまとめを行う。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 50% レポート 50%

【教科書】	発育期の子どもの食生活と栄養(学建書院) ビジュアル食品成分表(大修館書店)
【参考書】	こどもの心と体の成長・発達に良い食事(金芳堂)　印刷物配布。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習した内容・試食の感想などをノートにまとめて記載する。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
言葉指導法 ※実務経験のある教員の授業科目		勝見　恵子 保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			勝見
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うための技術を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①　領域「言葉」のねらい、内容について理解し、説明することができる。	発達援助技術
②　言葉を育てる遊びを構想することができる。	生活援助技術
③　環境による保育と子どもの言葉の育ちの関係について理解する。	環境構成技術
④　言葉の発達の基本的な道筋を理解する。	遊びの展開技術
⑤　保育教材を作り、実演を通して実践力を身に付ける。	コミュニケーション技術

【履修上の注意】授業で使用するものを事前にお知らせしますので、忘れ物がないように気を付けてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 領域「言葉」について	領域「言葉」のねらいや内容を理解する。	個人
2	子どもの言葉と育ちと環境	乳児保育におけるねらいと内容を理解し、乳児期の言葉を育てる保育者の役割について学ぶ。	グループ
3	子どもの言葉と育ちと環境	1歳以上3歳未満児の保育におけるねらいと内容を理解し、子どもの言葉を育てる保育者の役割を学ぶ。	グループ
4	子どもの言葉と育ちと環境	3歳以上児におけるねらいと内容を理解し、子どもの言葉を育てる保育者の役割を学ぶ。	グループ
5	非言語的コミュニケーション	コミュニケーション力を育む保育者のかかわりについて理解する。	グループ
6	特別講義「手話講座」	視覚言語である手話を学び、コミュニケーションの方法を身に付ける。	グループ
7	保育の場における言葉の支援	言葉のかかわりに配慮を要する乳幼児の保育の方法を身につける。	グループ
8	領域「言葉」における教材研究1	絵本の読み聞かせを用いた保育の展開を考え、指導計画案を立案する。(未満児)	グループ
9	領域「言葉」における教材研究2	絵本を用いた模擬保育を行う。(未満児)	グループ
10	領域「言葉」における教材研究3	絵本の読み聞かせを用いた保育の展開を考え、指導計画案を立案する。(以上児)	グループ
11	領域「言葉」における教材研究4	絵本を用いた模擬保育を行う。(以上児)	グループ
12	領域「言葉」における教材研究5	乳幼児が言葉を楽しめるシアターを作成する。	個人
13	領域「言葉」における教材研究6	乳幼児が言葉を楽しめるシアターを作成する。	個人
14	領域「言葉」における教材研究7	実践例を通して指導計画案を立案する。	グループ
15	子どもの言葉の育ちに関わる今後の課題	就学後の育ちを見通した保育者のかかわりについて理解する。	個人

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　50% 受講態度　20%	課題の達成度　30%

【教科書】	保育所保育指針解説(フレーベル館) 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)
【参考書】	保育内容「言葉」(同文書院) 対話的・深い学びの保育内容「人間関係」(萌文書林)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】保育所保育指針の「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いを覚えましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
表現指導法	大城　泰造 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を主に「表現」の領域の観点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする発達の援助について具体的に学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育における造形活動の意義について理解し、実践プログラムを作成する事ができる。	環境構成技術
②保育における造形活動にふさわしい環境の構成を行うことができる。	コミュニケーション技術
③保育における表現場面で言葉がけを中心とした適切な援助について構築できる。	遊びの展開技術
④保育の質的向上を目指した実践の省察と再計画化を行う姿勢を構築できる。	環境構成技術
⑤理論的根拠等を相互に探求し合い、PDCA型学習を実践できるようになる。	チームで働く力

【履修上の注意】受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	講義の進め方の説明と講義「保育内容の中の表現とは」保育における造形表現の役割を理解し、全体の学びの方法論を習得する。	個人
2	保育における表現指導の意義	「美術教育の意義と保育における表現の理解」美術教育の意義と保育における表現の理解について理解する。	個人
3	粘土制作　制作研究①	粘土　粘土制作の体験と制作の発想について理解する。	個人
4	粘土制作　制作研究②	土粘土　土粘土で協同制作に取り組み、素材の体験と協同制作を通して造形表現の可能性を探り、指導できるようになる。	グループ
5	共同制作　制作研究③	絵画の共同制作　絵の具を用いての描画活動を通して道具の扱いや表現の在り方を探り、指導できるようになる。	グループ
6	対話型鑑賞　ギャラリートーク①	対話型鑑賞　対話型鑑賞について学び、実践のポイントを理解する。	グループ
7	対話型鑑賞　ギャラリートーク②	対話型鑑賞の模擬的体験　対話型鑑賞を模擬的に体験しその効果や留意点を理解する。	グループ
8	乳幼児の表現の理解　制作研究④	子どもの表現の特徴を学ぶ。 2歳児の活動について映像や実技制作から学び、理解する。	個人
9	2歳児の表現の理解　制作研究⑤	子どもの表現の特徴を学ぶ。 2歳児の活動について映像や実技制作から学び、理解する。	個人
10	3, 4, 5歳児の表現の理解　制作研究⑥	3、4, 5歳児の遊び　3歳以上児の表現における特性を学び、理解する。	個人
11	グループワーク　ロールプレイング①	グループワークのはじまり　グループ討議、教材準備を通して環境構成について学び、理解する。	グループ
12	グループワーク　ロールプレイング②	前半グループの実施、振り返り　具体的な事例について相互学習を通して理解する。	グループ
13	グループワーク　ロールプレイング③	後半グループの実施、振り返り　具体的な事例について相互学習を通して理解する。	グループ
14	グループワーク　ロールプレイング④	前半・後半を通して比較・検討する。擬態的な事例について相互学習を通して理解する。	グループ
15	総括(学びのシェア)	遊び計画案・プレゼンテーション―学びのシェア　これまでの総括を行い、意見交換や相互学習を通して学びのシェアを行う。	グループ

期末試験		評価方法	課題の達成度　70%	受講態度　30%

【教科書】	講義内で必要なコピーを配布します。
【参考書】	講義内で必要なコピーを配布します。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品製作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子どもの生活と遊び（表現と運動）Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		田母神知加子 保育所（保育士）9年勤務 ・ 幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育の内容・方法に関する科目として位置づけ、様々な表現活動や運動遊びの援助ができるようにする。
子どもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育の内容を理解し、身体表現活動に関する知識や技術を習得する。 ②子どもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。 ③運動遊びを楽しく、安全に実施する環境つくりを学ぶ。 ④チームの中で互いに協力し、コミュニケーション技術を身に付けることが出来る。	前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術

【履修上の注意】 運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション ストレッチ体操・幼児体操①	授業内容及び準備物・服装・評価方法を確認する。 保育現場で取り入れている幼児体操を覚える①	個人
2	ストレッチ体操・縄跳び 幼児体操②	保育現場で取り入れている幼児体操を覚える②	個人
3	ストレッチ体操・縄跳び 幼児体操③	保育現場で取り入れている幼児体操を覚える③	個人
4	ストレッチ体操・縄跳び 幼児ダンス①	好きな曲やリズムに合わせて体を動かしてみる①	グループ
5	ストレッチ体操・縄跳び 幼児ダンス②	好きな曲やリズムに合わせて体を動かしてみる②	グループ
6	ストレッチ体操・縄跳び 幼児ダンス③	好きな曲やリズムに合わせて体を動かしてみる③	グループ
7	ストレッチ体操・縄跳び 遊具を使った遊び①	いろいろな素材のボールを使って子どもの年齢に合わせた遊びを考える。	グループ
8	ストレッチ体操・縄跳び 遊具を使った遊び②	フープや新聞紙、タオルなどの身近な遊具を使って年齢に合わせた遊びを考える。	グループ
9	ストレッチ体操・縄跳び 大型遊具を使った遊び	マット、平均台、跳び箱運動や複数の遊具の組み合わせによる運動遊びを理解する。	グループ
10	ストレッチ体操・縄跳び サーキット遊び	小型遊具や大型遊具を組み合わせたサーキット遊びを理解する。	グループ
11	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス①	幼児向けダンスの選曲を行う。 選んだ曲の振り付けを4分の1迄考える。	グループ
12	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス②	仕上げのイメージを考えて振り付けを2分の1迄進める。	グループ
13	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス③	振り付けを4分の3迄進める。	グループ
14	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス④	振り付けを完成させる。	グループ
15	ストレッチ体操・縄跳び 創作ダンス発表会	グループで踊り込みをした後に発表する。	グループ

期末試験	身体表現・発表力の実技・演習レポート 縄跳びの回数記録で評価する。	評価方法	実技試験 50% レポート 20%	受講態度 30%

【教科書】	特に使用しないが、必要に応じて資料を毎時間配布する。
【参考書】	幼稚園教育要領解説（フレーベル館）保育所保育指針解説（フレーベル館） 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領（チャイルド本社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループ活動では内容確認と復習に力を入れること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅱ	熊田　桂子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また。音楽とリズムⅠと同様に、音楽基礎理論、声楽、鍵盤楽器の基礎的な技能を習得する。さらに、保育に関わる歌を使った遊びの展開について学ぶ。

【学習目標(到達目標)】

①「音楽とリズムⅠ」に引き続き、音楽を構成する要素の基礎知識を身につける。
②季節の生活にかかわる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようになる。
③様々な子どもの歌の簡単な伴奏を弾けるようになる。
④簡単な伴奏に合わせて、歌を歌えるようになる。

【受講して得られる力】
遊びの展開技術

【履修上の注意】実技の練習をできるだけ毎日するように努めてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業の内容、目的、授業の進め方について理解する。音楽とリズムⅠの復習。	個人
2	4月のうた①	楽譜の読み方の復習。リズム読み。4月のうたを歌う。子どもの曲の簡単な伴奏を練習する。	個人
3	4月のうた②	リズム読み。音程の度数について学ぶ。4月のうたを歌う。リズムを打ちながら子どものうたを歌う。	個人
4	5月のうた①	2, 3, 6, 7度音程について学ぶ。5月のうたを歌う。新しい子どもの曲をピアノで練習する。	個人
5	5月のうた②	1, 4, 5, 8音程について学ぶ。5月のうたを歌う。新しい子どもの曲をピアノで練習する。	個人
6	6月のうた①	音程についての練習問題を解きながら、理解を深める。6月のうたを歌う。子どもの歌をピアノで弾けるように仕上げる。	個人
7	6月のうた②	音階の仕組みについて理解する。6月のうたを歌う。新しい曲をピアノで練習する。	個人
8	7月のうた①	音階と調性について理解する。7月のうたを歌う。新しい曲をピアノで練習する。	個人
9	7月のうた②	7月のうたを歌う。音程と和音の仕組みについて理解する。コード弾きをできるようにする。ピアノで弾き歌いの練習をする。	個人
10	8月のうた①	8月のうたを歌う。ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。	個人
11	8月のうた②	8月のうたを歌う。ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。	個人
12	9月のうた①	9月のうたを歌う。実技発表の曲を練習する。	個人
13	9月のうた②	9月のうたを歌う。実技発表の曲を練習する。	個人
14	課題練習	実技発表に向けて、課題曲・自由曲を練習する。	個人
15	課題練習	実技発表に向けて、課題曲・自由曲を練習する。	個人

期末試験	評価方法		
筆記試験	受講態度	10%	筆記試験 40%
実技(ピアノ)試験	小テスト	10%	実技試験 40%

【教科書】	保育者になるためのピアノ教本　子どもの歌でいつのまにか上達する(エイデル研究所) 幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育(教育芸術社)
【参考書】	いろいろな伴奏で弾ける選曲　100(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ピアノの練習を毎日少しでもすること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】メール連絡　kumachan@y2.dion.ne.jp

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅲ	熊田　桂子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また身近な音や音楽に親しむ遊びの経験を通して、子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①様々な音楽遊びを体験し、乳幼児期の発達に合わせた音楽遊びの展開例を知る。 ②様々なアイディアや工夫によって、音や音楽遊びを取り入れた指導案を作成できるようにする。 ③模擬保育を通して、いろいろなアイディアを得るとともに、実践力をつける。 ④自分自身の表現力も豊かにする。	遊びの展開技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】実技の練習をできる限り毎日するように努めてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業の内容、目的、進め方について理解する。これまでのピアノ実技の復習。	個人
2	音探検	環境の中の「音」について考え、どんな音があるか音探しをする。こどもの歌のピアノ弾き歌いの練習。	グループ
3	音からイメージへ	音を聴き、感じたものを色や形などでイメージし、絵で表す。次にイメージした絵や図から、音へ変換し、楽器で演奏する。	グループ
4	子どもの音楽と遊びの関係	音楽が乳幼児期の発達に対し、どんな関わりや意義があるかを考える。そのための保育者の役割を考える。	個人
5	リトミック	音やリズムを感じて、体で表現する。子どもの歌に合わせて体を動かす。	グループ
6	手遊び作り	知っている手遊びの確認。子どもの歌の幼児の発達に即した手遊びを考える。	グループ
7	即興リズムアンサンブル	簡易楽器、ハンドベルやドレミパイプを使いリズム遊びの展開例を考える。楽器がなくても即興的な合奏を体験しリズムの重なりを楽しむ。	グループ
8	ボディーパーカッション	体を使ったリズム遊びをする。体を使って音を出し、リズム合奏をする。	グループ
9	手づくり楽器	身近な材料で楽器を作ってみる。手作り楽器で音を出して遊ぶ。	個人
10	アンサンブルを楽しむ	手づくり楽器や簡易楽器を使った遊びを学ぶ。簡易楽器による合奏を楽しむ。	グループ
11	模擬保育と振り返り①	音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。	グループ
12	模擬保育と振り返り②	音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。	グループ
13	模擬保育と振り返り③	音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。	グループ
14	模擬保育と振り返り④	音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。	グループ
15	模擬保育と振り返り⑤	音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。発表について振り返りをする。	グループ

期末試験		評価方法	受講態度 20% レポート 30%	発表会の結果 50%

【教科書】	保育者になるためのピアノ教本　子どもの歌でいつのまにか上達する(エイデル研究所)
【参考書】	子どもの歌でいつのまにか上達する　保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所) 幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育(教育芸術社)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	ピアノの練習をする。普段から音楽と結びつけた音楽遊びを考えておく。授業内で出た課題は期限までにやってお

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡　kmachan@y2.dion.ne.jp

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの健康と安全	高萩　和子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理・危機管理・事故防止及び安全対策・感染症対策について理解し、子どもの体調不良、発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解を深める。	発達援助技術
②関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策につて具体的に理解する。	生活援助技術 環境構成技術
③子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解し説明できる。	相談支援技術
④子どもの発達や状態に即した適切な対応について、具体的に理解し説明できる。	コミュニケーション技術

【履修上の注意】 履修したことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してくること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	子どもの健康と保育の環境について知る。	個人
2	保健的観点をふまえた保育環境及び援助	個別対応と集団全体の健康及び安全の管理について理解する。	個人
3	保育における健康および安全の管理	手洗い演習を通して施設内の衛生管理・職員の衛生管理についての知識を身につける。	グループ
4	保育における健康および安全の管理	嘔吐物の処理方法演習①を通して食中毒の予防と発生時の対応についての知識を身につける。	グループ
5	保育における健康および安全の管理	嘔吐物の処理方法演習②を通して食中毒の予防と発生時の対応についての知識を身につける。	グループ
6	保育における健康および安全の管理	事故防止および安全対策について理解する。	個人
7	保育における健康および安全の管理	危機管理、災害への備えについて理解する。	個人
8	子どもの体調不良等に対する適切な対応	体調不良が発生した場合の対応について理解する。	個人
9	子どもの体調不良等に対する適切な対応	緊急を要する状況への対処方法について理解する。	個人
10	子どもの体調不良等に対する適切な対応	応急手当の方法を理解する。	個人
11	感染症対策	感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応、疾病の支援体制について理解する。	個人
12	保育における保健的対応	3歳児未満への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応について理解する。	個人
13	保育における保健的対応	障害のある子どもへの対応について理解する。	個人
14	健康および安全管理の実施体制	職員間の連携・協働と組織的取組み、保健活動の計画及び評価、地域との連携について理解する。	個人
15	まとめ	前期学習のまとめを行う。	個人
期末試験	筆記試験	評価方法　課題の達成度　100%	

【教科書】	子どもの健康と安全(学建書院)
【参考書】	子どもの保健演習ノート　改定第3版(診断と治療社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 現在、マスメディア等で子どもの健康についてどのようなことが話題になっているか関心を示す。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害児保育(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂　徹 障害児入所施設(指導指導員)11年			小坂
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児保育についての理解を深める。また、各種障害についての知識と理解を深め、障害児の援助方法や環境構成について学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①「障害」について説明できる。 ②各種障害について説明できる。 ③障害児の援助方法や環境構成について説明できる。	前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】予習課題の励行と事前提出

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業内容と進め方、評価方法、履修上の注意点等について理解し、また、「障害」についての基本的理解を持つ。	個人
2	障害児保育を支える理念Ⅰ	講義:①障害があるとは？②障害がある子どもの保育とは？ について理解する。	個人
3	障害児保育を支える理念Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
4	障害児保育の基本Ⅰ	講義:発達の見方と発達の評価、障害児保育の対象と保育の場について学ぶ。	個人
5	障害児保育の基本Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
6	知的障害の理解と支援Ⅰ	講義:知的発達に遅れのある子どもについて、考え方や特徴、支援の方法などについて学ぶ。	個人
7	知的障害児の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により知的障害の理解と支援について理解を深める。	グループ
8	肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と支援Ⅰ	講義:肢体不自由、聴覚障害、視覚障害がある子どもの理解と支援について学ぶ。	個人
9	肢体不自由児、聴覚障害児、視覚障害児の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
10	発達が気になる子の理解と支援Ⅰ	講義:発達が気になる子とは？また、その支援について学び、理解を深める。	個人
11	発達が気になる子の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により、発達が気になる子の支援について理解を深める。	グループ
12	発達障害の理解と支援Ⅰ	講義:自閉症、ADHD、LDの理解と支援について学ぶ。	個人
13	発達障害の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により発達障害のある子どもの理解と支援について学び、理解を深める。	グループ
14	保育の計画の作成と記録・評価Ⅰ	講義:子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価について具体的に学ぶ。	個人
15	保育の計画の作成と記録・評価Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により、より具体的に理解を深める。	グループ

期末試験	なし	評価方法	課題の達成度 80% 授業への貢献 10%	受講態度 10%

【教科書】	障害児保育－子どもとともに成長する保育者を目指して－(萌文書林)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎回の授業の予習と課題の事前提出		
【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
障害児保育(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂　徹 障害児入所施設(児童指導員)11年			小坂
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

障害児が他の子どもとの関わりの中で育ちあう保育実践について学び、理解を深める。さらに障害のある子どもの保護者への支援や、保健、医療などの関係機関との連携について学び、理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①個々の発達を促す生活や遊びの環境づくりと他者との関わりと育ちあいへの配慮ができる。	発達援助技術
②職員間の連携と協力関係づくりの重要性を説明できる。	生活援助技術
③保護者理解と家庭や関係機関との連携の必要性を説明できる。	環境構成技術
④早期発見と就学に向けての支援の重要性を理解する。	コミュニケーション技術
⑤保健・医療・福祉・教育における現状と課題と展望について理解する。	相談支援技術

【履修上の注意】予習課題の励行と事前提出。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅰ	講義:子ども一人一人の発達を促す生活や遊びの環境づくりについて学ぶ。	個人
2	個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅱ	演習課題についてのグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
3	他者との関わりと育ちあいⅠ	講義:保育者の関わりと集団保育における配慮について学ぶ。	個人
4	他者との関わりと育ちあいⅡ	演習問題についてのグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
5	職員間の協力関係Ⅰ	講義:いくつかのエピソードを通して職員間の連携、協力、情報共有について学ぶ。	個人
6	職員の協力関係Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
7	家庭や関係機関との連携Ⅰ	講義:保護者の気持ちを理解した上での連携による支援について学ぶ。	個人
8	家庭や関係機関との連携Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
9	早期発見と支援Ⅰ	講義:健康診査制度、発達相談と療育資源について学ぶ。	個人
10	早期発見と支援Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
11	就学に向けての支援Ⅰ	講義:障害のある子どもの就学先と就学に向けた支援について学ぶ。	個人
12	就学に向けての支援Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
13	保健・医療における現状と課題	講義:障害のある子どもに関わる保健・医療の現状と課題についてついて学ぶ。	個人
14	福祉・教育における現状と課題	講義:障害のある子どもに関わる保健・医療の現状と課題についてついて学ぶ。	個人
15	支援の広がりとつながり	事例を通して支援に関する縦と横のつながりについて学ぶ。	個人

期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 60% 授業への貢献 20%	受講態度 20%

【教科書】	障害児保育－子どもとともに成長する保育者を目指して－(萌文書林)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎回の授業の予習と課題の提出		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
社会的養護Ⅱ		緑川　浩子 一般			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

社会的養護の具体的内容や方法を学び、ケーススタディ等から保育士としての支援・役割を理解し、具体的な援助方法についても理解することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会的養護の歴史的変遷に関する理解を深めることができる。 ②社会的養護に関連する法制度及び実施体制を把握することができる。 ③社会的養護の現状及び課題について理解を深め、自ら考察することができる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】毎回の講義終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってくること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	社会的養護を必要とする児童の理解 講義についての趣旨説明を理解する。	個人
2	社会的養護の意義	社会的養護を必要とする児童の課題を考察する。 養護問題発生理由とは何か理解する。	個人
3	社会的養護と権利擁護	社会的養護における児童の権利擁護 児童の権利に関する条約から子どもの権利を考える。	個人
4	①社会的養護の実施体制	社会的養護の仕組み・体系 専門職の意義を考える意義を考える。	個人
5	②社会的養護の実施体制	子ども及び保護者の状況・状態の把握を理解する。 様々な支援内容について理解する。	個人
6	③社会的養護の実施体制	施設養護とは何か 施設養護の生活特性および実際を理解する。	個人
7	④社会的養護の実施体制	入所施設の実際 児童養護施設について理解する。	個人
8	⑤社会的養護の実施体制	入所施設の実際 障害児施設について理解する。	個人
9	児童虐待と関連法規	児童虐待防止法と関係法規 虐待への支援方法について理解する。	個人
10	施設養護とソーシャルワーク	施設運営管理について ファミリーソーシャルワーカーについて理解する。	個人
11	①社会的養護の課題	生活と援助体系 子どもを主体とした生活と援助について理解する。	個人
12	②社会的養護の課題	自立支援とは何か 子どもの自立支援の充実を図るにはどうするか考察する。	個人
13	③社会的養護の課題	子どもの周囲の環境 家族・子育て・地域支援の課題について考察する。	個人
14	④社会的養護の課題	社会的養護の展望 子ども家庭福祉と家族家庭福祉について理解する。	個人
15	まとめ	講義のまとめを行う。	

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20% 筆記試験 60%	レポート 20%

【教科書】	新・基本保育シリーズ　18　社会的養護Ⅱ(中央法規)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習は意識的に取り組みましょう。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
子育て支援 ※実務経験のある教員の授業科目		1)渡邉佐江子 ・勝見恵子 1)保育園(保育士)16年勤務			渡邉
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育士の行う子育て支援について、保育士と保護者の関係形成方法や保育所が行う支援について理解する。また、様々な場面や対象に即した支援の方法や技術を実践的に習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援(保護者支援)について、その特性と展開を具体的に理解できる。 ②保育士の行う子育てについて、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できる。	考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーション技術 相談支援技術

【履修上の注意】事前演習にしっかり取り組む。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保育士が行う子育て支援の特性1	授業内容や履修上の注意点などを理解する。 子どもの保育とともに行う保護者の支援を理解する。	個人
2	保育士が行う子育て支援の特性2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成を理解する。	グループ
3	保育士が行う子育て支援の特性3	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。	グループ
4	保育士が行う子育て支援の展開1	子ども及び保護者の状況・状態の把握を理解する。	グループ
5	保育士が行う子育て支援の展開2	支援の計画と環境の構成を理解する。	グループ
6	保育士の行う子育て支援の展開3	支援の実践・記録・評価・カンファレンスを理解する。	グループ
7	保育士の行う子育て支援の展開4	職員間の連携と協働を理解する。	グループ
8	保育士の行う子育て支援の展開5	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働を理解する。	グループ
9	保育士が行う子育て支援とその実際1 (内容・方法・技術)	保育所等における支援を理解する。	グループ
10	保育士が行う子育て支援とその実際2 (内容・方法・技術)	地域の子育て家庭に対する支援を理解する。	グループ
11	保育士が行う子育て支援とその実際3 (内容・方法・技術)	障害のある子ども及びその家庭に対する支援を理解する。	グループ
12	保育士が行う子育て支援とその実際4 (内容・方法・技術)	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援を理解する。	グループ
13	保育士が行う子育て支援とその実際5 (内容・方法・技術)	子ども虐待の予防と対応を理解する。	グループ
14	保育士が行う子育て支援とその実際6 (内容・方法・技術)	要保護児童等の家庭に対する支援を理解する。	グループ
15	保育士が行う子育て支援とその実際7	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解をする。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60% 授業への貢献 20%	課題の達成度 20%

【教科書】	幼稚園教育要領解説(フレーベル館)保育所保育指針解説(フレーベル館)
【参考書】	子育て支援(中央法規) 学習の主題に応じて適宜資料を配布する。
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書の一読や課題の予習やノート整理による復習。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実践演習(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂 ・1)勝見 ・田母神 ・渡邉 ・矢吹 ・鈴木 1)保育園(保育士)18年勤務 ・ 幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

保育士養成課程の教育課程全体を通して、保育士として必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観等の修得、形成について、自らの学びを振り返り確認するために、グループ討論、ロールプレイング等の授業方法により、その定着を図る。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理、社会性、対人関係能力を理解できる。 ②子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解できる。 ③保育や子育て家庭に対する支援の展開について説明できる。 ④保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について理解できる。 ⑤自己の課題の把握と今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等の明確にできる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーション技術

【履修上の注意】演習課題やグループ討議への積極的参加

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	本科目の目標と計画、担当教員等について理解する。 グループにおける学びあいについて理解する。	個人
2	保育とは、保育者の仕事とは	保育者に求められる役割について講義と演習を通して理解する。	個人
3	保育実践力を育む保育・実践演習Ⅰ	講義と事例を通して保育実践力を育む必要性について理解する。	グループ
4	保育実践力を育む保育実践演習Ⅱ	演習課題とグループ討議を通して理解を深める。	グループ
5	保育の場における保育実践力1ーⅠ 保育実践の原理	保育実践の原理について講義を主として理解を深める。	個人
6	保育の場における保育実践力Ⅰー2 保育実践の原理	主に演習課題を通して理解を深める。	グループ
7	保育の場における保育実践力Ⅱー1 保育実践の実際	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
8	保育の場における保育実践力Ⅱー2 保育実践の実際	主に演習問題を通して理解を深める。	グループ
9	保育の場における保育実践力Ⅲー1 今後さらに求められる実践力	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
10	保育の場における保育実践力Ⅲー2 今後さらに求められる実践力	主に演習問題を通して理解を深める。	グループ
11	保育実践力を育む方法と内容Ⅰー1 事例研究	事例研究の方法で各自の事例を記述し、グループで紹介しあう。	グループ
12	保育実践力を育む方法と内容Ⅰー2 事例研究	グループごとに取り上げた事例をグループ討議、発表する。	グループ
13	保育実践力を育む方法と内容Ⅱー1 ロールプレイング	ロールプレイング・心理劇についての講義と演習。	グループ
14	保育実践力を育む方法と内容Ⅱー2 ロールプレイング	演習課題とグループ討議・発表を通して理解を深める。	グループ
15	保育実践力を育む方法と内容Ⅲー3	事例課題のロールプレイングとグループ討議と発表。	グループ

期末試験	原則としてなし。	評価方法	授業への貢献 30% 受講態度 30%	課題の達成度 40%

【教科書】	保育・教育実践演習(建帛社)
【参考書】	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習課題のある場合の達成		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実践演習(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		小坂・1)勝見・田母神・渡邉・矢吹・鈴木 1)保育園(保育士)18年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

保育士養成課程における教育課程全体を通して、保育士として必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観等の修得について、自らの学びを振り返り確認するために、グループ討議、ロールプレイング等の授業方法により、資質・能力の向上を図る。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理、社会性、対人関係能力を理解できる。 ②子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解できる。 ③保育や子育て家庭に対する支援の展開について説明できる。 ④保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について理解できる。 ⑤自己の課題の把握と今後に向けてとりくむべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確にできる。	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術

【履修上の注意】演習課題やグループ討議への積極的参加。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保育実践力を育む方法と内容Ⅲ－1 プレゼンテーション	クラス便りに関する演習課題とそのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
2	保育実践力を育む方法と内容Ⅲ－2 プレゼンテーション	様々な方法についての演習課題とそのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
3	保育実践力を育む方法と内容Ⅲ－3 プレゼンテーション	VTR視聴を通しての演習課題とそのグループ討議・発表を通して理解を深める。	グループ
4	小学校との連携Ⅰ 事例1	事例1についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
5	小学校との連携Ⅱ 事例2	事例2についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
6	小学校との連携Ⅲ 事例3	事例3についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
7	生き生きと遊ぶ子供の生活Ⅰ 事例1	事例1についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
8	生き生きと遊ぶ子供の生活Ⅱ 事例2	事例2についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
9	生き生きと遊ぶ子供の生活Ⅲ 事例3	事例3についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
10	保育のねらいを踏まえた指導計画の作成 事例	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
11	子どもの思いの理解と保育者の願いⅠ 事例1	事例1についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
12	子どもの思いの理解と保育者の願いⅡ 事例2	事例2についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
13	子どもの思いと理解と保育者の願いⅢ 事例3	事例3についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
14	子ども同士のトラブルへの関わり 事例	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
15	まとめ	不足部分の補講と全体の振り返りを行い、各担当教員からのコメントを受ける。	グループ

期末試験	原則としてなし。	評価方法	授業への貢献 30% 受講態度 30%	課題の達成度 40%

【教科書】	保育・教育実践演習(建帛社)
【参考書】	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題がある場合の達成。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療保育総論	菊池　信太郎、松本　美津子、廣田　直美、中村　くみ子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

出生前からの子どもとその母親の状況を知り、親子の全体像を捉える。また、子どもの主な疾患や障害について学び、病児保育や体調不良児童への対応、生活の中での療育活動など医療と保育の連携について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療と保育の具体的な連携方法を説明できる。 ②小児領域の主な疾患について説明できる。 ③体調不良児童や障害児の遊びと生活支援を具体的に理解し、実践する。	考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	妊娠～出産までの状況を知る　松本	妊娠の成立から胎児の成長、新生児について知る。出産から新生児期の育児について体験を通して理解を深める。	個人
2	妊娠中の母親の現状を知る　松本	妊婦生活の苦労や大変さと、夫と家族の協力の必要性を理解する。母親の愛着問題、生育歴など、育児との関係について知る。	個人
3	DVについて知る　松本	DVの種類や被害の影響について正しく理解する。	個人
4	小児を知る～成長発達～　菊池	子ども(小児)とは。子どもと大人の違いを知る。 小児の特性と、医療における小児の分野について知る。	個人
5	小児に見られる症状を知る　菊池	小児でよく見られる症状や気を付けるべき症状を知る。 いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。	個人
6	食物アレルギーについて知る　菊池	食物アレルギーとは、食物アレルギーの主な原因と症状、その対策について知る。	個人
7	病児病後児保育について知る　菊池	病児病後児保育とは、病児病後児保育の実際について知る。絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。	個人
8	小児の事故と予防を知る　菊池	小児で生じやすい主な事故を知る。事故の対策と予防について知る。	個人
9	小児の主な疾患について知る　菊池	小児の主な慢性疾患の概要と対応について知る。	個人
10	病児保育実習　菊地	小児科及び病児保育室で実習を行い、体験を通して病児の理解を深める。	グループ
11	視能訓練士の仕事内容　廣田	視能訓練士の仕事内容を理解する。	個人
12	ビジョントレーニング　廣田	子どもの視力や目のトレーニングを実際にしてみる。	グループ
13	言語聴覚士とは　中村	言語聴覚士の仕事内容を知る。	個人
14	言語発達とコミュニケーション　中村	言葉の発達や言葉に関する障害について知る。	個人
15	摂食嚥下について　中村	嚥下の仕組み等、詳しい内容を体験を通して知る。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　50%	受講態度　50%

【教科書】	医療保育　ぜひ知っておきたい小児科知識改定4版(診断と治療社)　子どもの保健演習ノート改定3版(診断と治療社) 実践病児保育入門　認定病児スペシャリスト試験　公式テキスト(栄治出版)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】「子どもの保健」「子どもの健康と安全」で学習したことを振り返りながら復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
多職種連携総論	窪木　守、安中　聡一、片桐　秀樹、高野　真一、菅野　克信 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

保育現場における多職種連携、協同の実際を理解し、保育士に関する専門職の専門性と、それらの専門職と協働することによる保育士のアイデンティティの理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①他の専門職の仕事内容を説明できる。 ②他の専門職と保育士がどのように協働できるのか自分の考えをまとめて発表できる。 ③専門的技術の一部分を実践することが出来る。	考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術

【履修上の注意】開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	介護福祉士の仕事 窪木	介護福祉士の仕事内容を理解する。	個人
2	介護基礎技術① 窪木	体の仕組みを知り、実際の体の使い方を実践し、習得する。	グループ
3	介護基礎技術② 窪木	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。	グループ
4	介護基礎技術③ 窪木	ベットメイキングと衣類着脱を実践し、習得する。	グループ
5	理学療法士の仕事内容 安中	理学療法士の仕事内容を理解する。	個人
6	ハイリスク新生児の理学療法 安中	ハイリスク新生児に対する理学療法の内容を理解する。	グループ
7	ハイリスク新生児の理学療法術① 安中	NICUの理学療法士の仕事内容を理解する。	グループ
8	ハイリスク新生児の理学療法術② 安中	NICUの保育器の中で行うリハビリを実践し、習得する。	グループ
9	小児期のケガ 片桐	乳児、幼児、児童に多いケガについて理解する。	グループ
10	応急処置法 片桐	応急処置法を実践し、習得する。	グループ
11	作業療法士の仕事 髙野	作業療法士の仕事内容を理解する。	個人
12	作業療法士の仕事 髙野	作業療法士の仕事内容を理解する。	個人
13	作業療法士の仕事 髙野	作業療法士の仕事内容を理解する。	個人
14	施設内の多職種連携 菅野	多職種連携の実際について理解する。	グループ
15	施設内の多職種連携 菅野	多職種連携の実際について理解する。	グループ

期末試験	なし	評価方法	受講態度 50%	レポート 50%

【教科書】	授業の中で必要な資料をその都度渡します。
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	医療・保健・障害の分野でこれまでに学習したことを振り返りながら、復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
発達障害児の理解と対応 ※実務経験のある教員の授業科目		小坂　徹 障害児入所施設(児童指導員)11年			小坂
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

発達障害をもつ子や気になる子の行動の意味を捉え、実際の保育場面での様々なつまずき行動に対する理解を深めながら、実際の工夫についての実践的な手だてを身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①発達障害児や気になる子の行動特徴について理解する。 ②それらの行動の意味を考えることができる。 ③その行動の意味に合わせた対応の工夫を考えることができる。 ④実習体験からそれらの行動の意味や対応を考えることができる。	考え抜く力 コミュニケーション技術 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術

【履修上の注意】予習課題の励行と事前提出及びグループ討議への積極的参加。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業概要の説明と進め方、評価の方法と履修上の注意点について理解する。	個人
2	登園時の配慮と工夫	①園になじめない　②荷物の整理ができない　③出席のシール貼りができない場合について考える。	グループ
3	自由遊び時の配慮と工夫Ⅰ	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。	グループ
4	自由遊び時の配慮と工夫Ⅱ	①友だちの嫌がることを言う　②同年齢の友だちとの関わりが少ない　③特定の保育者がいないと遊べない場合を考える。	グループ
5	自由遊び時の配慮と工夫Ⅲ	①仲間に入れない②友だちのおもちゃを取ってしまう ③友だちに手が出てしまう場合につい考える。	グループ
6	自由遊び時の配慮と工夫Ⅳ	①片付けができない場合　②次の場面への切り替えがスムーズにできない場合について考える。	グループ
7	集団活動時の配慮と工夫Ⅰ	①説明が分からず、反応できない　②保育室や園から飛び出してしまう　③絵本や紙芝居の読み聞かせに参加できない場合を考える。	グループ
8	集団活動時の配慮と工夫Ⅱ	①造形活動に参加できない②運動遊びに参加できない ③集団遊びに参加できない場合について考える。	グループ
9	集団活動時の配慮と工夫Ⅲ	①水遊びに参加できない　②ごっこ遊びに参加できない ③しゃべってはいけない場面でもよくしゃべる場合を考える。	グループ
10	排泄時の配慮と工夫	①トイレに行くことを嫌がる　②尿意・便意を知らせない ③トイレでの排泄が上手くできない場合について考える。	グループ
11	散歩時の配慮と工夫	①安全に行動できない　②みんなと同じペースで歩けないについて考える。	グループ
12	食事時の配慮と工夫Ⅰ	①落ち着て食べられない②食べることを嫌がる場合について考える。	グループ
13	食事時の配慮と工夫Ⅱ	①配膳されるとすぐに食べてしまう　②咀嚼や呑み込みが上手くいかない　③食器類を上手く使えない場合について考える。	グループ
14	着脱時・午睡時の配慮と工夫	①自分でできない②嫌がる③調節が難しい④準備ができない場合について考える。	グループ
15	降園時の配慮と工夫	①帰りの準備ができない　②スムーズに帰れない場合について考える。	グループ

期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 60% 授業への貢献 20%	受講態度 20%

【教科書】	気になる子も過ごしやすい園生活のヒント(学研)
【参考書】	障害児保育(萌文書林)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業前の予習とその課題の事前提出。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
居住環境学	田中　絹代 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

居住環境の概念を理解し，子どもや高齢者，障害者を含めた全ての人々にとって安全で快適に暮らせる居住環境について学びます。

【学習目標(到達目標)】

①子ども，高齢者，障害者にとって居住環境について説明ができる。

②子ども，高齢者，障害者にとって快適な居住環境とは何かを提案できる。

③社会的弱者を含めたすべての人々が快適に暮らせる環境づくりを考えることができる。

【受講して得られる力】

考え抜く力

チームで働く力

環境構成技術

発達援助技術

【履修上の注意】毎回の授業の予習と課題の事前提出を忘れないように気をつけること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	概論	環境について理解し、自分の理想の居住環境について表現できる。	個人
2	子どもの権利条約にみる居住環境	「子どもの権利条約」にみる住居環境について理解し，説明できる。	個人
3	子どもの行動と環境の関係	子どもの発達と行動，環境との相互関係について理解し、説明できる。	個人
4	子どもを取り巻く居住環境の変化	子どもを取り巻く居住環境の変化について理解し、説明できる。	グループ
5	子育てと居住環境①	子育てに適した環境を①安全性，②健康性，③快適性，④利便性に分けて理解し，説明できる。	個人
6	子育てと居住環境②	子育てに配慮した居住環境(住宅・地域社会)を説明できる。	グループ
7	障害者と高齢者と居住環境①	演習を通して障害者・高齢者の居住環境のニーズや生活との関連について関心を持つ。	グループ
8	障害者と高齢者と居住環境②	障害者・高齢者に配慮した居住環境(住宅・地域社会)を説明できる。	グループ
9	子ども，障がい者．高齢者のための住環境①	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について興味を持つ。	グループ
10	子ども，障がい者．高齢者のための住環境②	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について理解し，実際の住宅の改築案を考えることができる。	グループ
11	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり①	人間にとっての住宅環境の持つ意味について理解し，「すべての人々のための環境づくり」に関心を持つ。	グループ
12	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり②	人間にとっての住宅環境の持つ意味について理解し，「すべての人々のための環境づくり」を提案できる。	グループ
13	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり③	「全ての人々のための環境づくり」について，子どもが学ぶ活動を提案することができる。	グループ
14	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり④	「全ての人々のための環境づくり」について，子どもが学ぶ活動を振り返ることができる。	グループ
15	まとめ	「社会的弱者の視点にたった環境づくり」経過のまとめと発表を通して，理解を深め，説明することが出来る。	グループ

期末試験		評価方法	課題の達成度 40% 受講態度 30%	レポート 30%

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ活動の準備

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
感覚統合入門	田中　絹代 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

障害のある子どもの療育の一つである感覚統合理論をもとに，子どもの行動特性を理解し，子どもの発達に応じた感覚運動遊びについて学びます。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①感覚統合理論の重要な感覚の種類と機能について説明できる。 ②感覚統合理論に基づいて子どもの発達を促す遊びを立案できる。 ③障害をもった子どもに配慮し，感覚統合理論に基づいたプログラムを安全に実施できる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術

【履修上の注意】実際の遊具を使った演習を通して理解を深めます。動きやすい服装で参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	感覚統合理論①	障害をもつ子どもを対象とした療育の中で「感覚統合」についての位置づけや理論的背景を説明できる。	個人
2	感覚統合理論②	感覚の機能と発達的意義について説明できる。	グループ
3	感覚統合機能の評価①	感覚統合機能の評価が実施できる。	グループ
4	感覚統合機能の評価②	感覚統合機能の評価結果を生活上の行動として理解できる。	グループ
5	触覚系の感覚遊び①	演習を通して触覚系の遊びに興味を持つ。	グループ
6	触覚系の感覚遊び②	グループで触覚系の遊びを振りかえりその発達的意義について説明できる。	個人
7	固有受容系・前庭系の感覚遊び①	演習を通して固有受容系・前庭系の遊びに関心を持つ。	グループ
8	固有受容系・前庭系の感覚遊び②	グループで固有受容系・前庭系の遊びを振りかえりその発達的意義について説明できる。	個人
9	感覚運動遊びの展開	「正常発達」の原則に基づいて感覚運動遊びの段階付けができる。	個人
10	グループ活動の立案と実施①	感覚統合理論をもとにしてグループ活動を立案できる。	グループ
11	グループ活動の立案と実施②	感覚統合理論をもとにしてグループ活動の準備ができる。	グループ
12	グループ活動の立案と実施③	感覚統合理論をもとにしたグループ活動を安全に実施し、記録できる。	グループ
13	グループ活動の振り返り	感覚統合理論をもとにしたグループ活動を振りかえり、発達的意義について理解することができる。	個人
14	グループ活動の発表	グループ活動のまとめを発表することで「感覚統合理論」の理解を深める。	グループ
15	まとめ	子どもの行動を感覚統合理論の視点だけでなく，他の発達学的視点から統合的に理解できる。	個人

期末試験		評価方法	課題の達成度 40% 受講態度 30%	レポート 30%

【教科書】	幼児期の感覚統合遊び－保育士と作業療法士のコラボレーション(クリエイツかもがわ)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	グループ活動の準備		
【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
在宅保育 ※実務経験のある教員の授業科目		田母神　知加子 幼稚園(幼稚園教諭) 2年勤務・ 保育所(保育士)11年勤務			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

様々な社会的ニーズによって発生してきたベビーシッターの役割を理解する。在宅での保育に必要な技術や安全管理方法を学び、ベビーシッターとして必要とされる専門的な技術を身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①在宅保育の意義や役割を理解する。 ②ベビーシッターとして必要な知識、技術を習得することができる。 ③家庭訪問保育の模擬保育実践を通して、ベビーシッターとしての倫理観を学ぶ。	発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術

【履修上の注意】全講義を履修後、試験を実施し、保育士資格取得と同時に認定ベビーシッター資格を取得することができます。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	履修上の注意、授業の内容や進め方について理解する。	個人
2	在宅保育の理解	子ども子育て支援法における保育サービス制度の理解と、その一つである在宅保育の社会的役割について理解する。	個人
3	ベビーシッターの実際①	ベビーシッターの仕事の流れとその内容を理解する。	個人
4	ベビーシッターの実際②	ベビーシッターとしてのマナーや基本姿勢を学ぶ。	個人
5	ベビーシッター概論①	在宅保育の現状、保育形態の変容と課題について学ぶ。	個人
6	ベビーシッター概論②	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育サービスにおける実態と留意点を理解する。	個人
7	ベビーシッター概論③	グループ保育、学童保育、夜間・宿泊を伴う保育サービスにおける実態と留意点を理解する。	個人
8	保育マインドと子育て支援	在宅保育における保育の考え方、保育マインドを理解する。 家庭のニーズへの理解とカウンセリングマインドを理解する。	個人
9	在宅保育のリスクマネジメント	在宅保育における事故の発生箇所とその予防策について理解する。	個人
10	子どもの保健	在宅保育における健康管理に必要な知識と技術を学ぶ。	個人
11	子どもの発達	新生児期から学童期の子どもの発達過程と障害について理解する。	個人
12	子どもの栄養	新生児期から学童期の子どもの栄養と食事の方法、食育について学ぶ。	個人
13	ベビーシッターの保育技術①	子どもの発達段階や生活環境に応じた日常生活援助や関わり方を学ぶ。	グループ
14	ベビーシッターの保育技術②	子どもの発達段階や生活環境に応じた遊びの援助や関わり方を学ぶ。	グループ
15	模擬保育	これまでの学習を活かして、実際に家庭を訪問することを想定してベビーシッターとしての模擬保育を行う。	グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50%

【教科書】	家庭訪問保育の理論と実際　第3版(中央法規出版)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】既習してきた内容を用いながら、復習を行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
入門臨床美術		大城　泰造 一般			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

臨床美術を基に、制作した美術作品を通して、一人一人の参加者にそった働きかけをすることを学び、その人の意欲と潜在能力を引き出す知識と技法を修得することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①病院や施設、保育園で実践されている臨床美術の基本的な知識と技術を表現できる。 ②実際に美術制作を行うことにより、創造性をもってアートを理解することができる。 ③ロールプレイングによってコミュニケーションスキルを様々な形で活かすことができるようになる。 ④プレゼンテーションスキルを獲得し、様々な場面で活かすことができるようになる。 ⑤保育の向上を目指した実践の省察と再計画化を行いPDCA学習を構築できる。	コミュニケーション技術 チームで働く力 遊びの展開技術 環境構成技術

【履修上の注意】受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス　講義の進め方についての説明	「臨床美術論ガイダンス」講義計画全体やこの講義の位置付け、臨床美術士の資格について理解する。	個人
2	臨床美術の基幹①臨床美術/チーム作り	授業プラン、評価について説明を受け理解し、チーム作りを通して学びの体制を整える。	グループ
3	臨床美術の基幹②臨床美術/基幹	臨床美術の歴史、理念について学び、基本的な画材の使用方法につても学び理解する。	個人
4	臨床美術入門①　アナログ画	概念的な絵にならず自由に絵を描くとはどういうことかを実際に制作を通して学び理解する。	グループ
5	臨床美術入門②　ジェスチャー画	動きを素早く捉える方法、モチーフの捉え方についてクロッキーを通して学び習得する。	グループ
6	臨床美術入門③　量感画	ものを実感するとはどういうことかについて、リンゴをモチーフに制作を通して学び習得する。	個人
7	臨床美術入門④　立体造形カボチャ1	2Dから3Dの制作を通して、新聞と和紙を用いた立体作品の制作方法を学び習得する。	個人
8	臨床美術入門⑤　立体造形カボチャ2	2Dから3Dの制作を通して、新聞と和紙を用いた立体作品の制作方法を学び習得する。	グループ
9	臨床美術入門⑥　修正輪郭画	純粋輪郭画法、修正輪郭画法を実践を通し学び習得する。	個人
10	存在論的人間観	臨床美術の理念となる人間へのまなざしを存在論的人間観を通して学び理解する。	個人
11	コミュニケーションスキル① アートコミュニケーション(非言語)	アートを通したコミュニケーションの可能性について学び、制作と相互学習を通して理解する。	グループ
12	コミュニケーションスキル② アートコミュニケーション(言語)	鑑賞会の実践を通して自己肯定感、自己効力感を高めるコミュニケーションスキルについて学び、習得する。	グループ
13	臨床美術実践の基礎①　実践の基礎(3D)	粘土を用いたアートプログラムについて学び、習得する。	個人
14	臨床美術実践の基礎② 実践の基礎(共同制作)	これまで学んだアート技法、コミュニケーションスキルを活かし、共同制作を通して実践できるようになる。	グループ
15	総括(学びのシェア)	学びのシェア　これまでの総括を行い、意見交換や相互学習を通して学びのシェアを行う。	グループ

期末試験		評価方法	課題の達成度　70%	受講態度　30%

【教科書】	講義内で必要なコピーを配布します。
【参考書】	講義内で必要なコピーを配布します。 臨床美術士養成講座5級取得コーステキスト(芸術造形研究所)、臨床美術のすすめ(日本臨床美術協会)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目		勝見恵子 保育園（保育士）18年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）9年勤務			勝見
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	20(160)	実習	4

【授業の概要・目的】
保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学びながら、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。	発達援助技術
②観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。	生活援助技術
③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	チームで働く力
④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。	考え抜く力
⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	コミュニケーション技術

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	【保育所における実習の内容】 1.保育所の役割と機能 (1)保育所の生活と一日の流れ (2)保育所保育指針の理解と保育の展開 2.子ども理解 (1)子どもの観察その記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3.保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育環境 (3)子どもの健康と安全 4.保育の計画，観察，記録 (1)保育過程と指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5.専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理 【居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容】 1.施設の役割と機能 (1)施設の生活と流れ (2)施設の役割と機能 2.子ども理解 (1)子どもの観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助とかかわり 3.養護内容・生活環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた対応 (3)子どもの活動と生活の環境 (4)健康管理，安全対策の理解 4.計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5.専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験		評価方法	課題の達成度 40% 実習評価 60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)・保育所保育指針・保育所保育指針解説(厚生労働省)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員から指示があります。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目		1)田母神知加子・矢吹ヒロ子・鈴木恵夏 1)保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務			田母神
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びを関連させながら保育実践力を習得する。また附属保育園における実践などを通して学び、実習後は実習の総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実習の意義と目的を理解する。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえながら、保育実践力を培う。 ③保育の観察・記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解を深める。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。	環境構成技術 遊びの展開技術 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】身支度を整え、保育士らしい服装で授業に参加すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保育実習Ⅱの意義と方法 田母神	「保育実習指導Ⅰ」を踏まえた実習の目的と内容を理解する。	個人
2	保育教材研究① 矢吹	年齢や育ちに合わせた製作あそびの指導計画案や方法について調べる①	グループ
3	保育教材研究② 矢吹	年齢や育ちに合わせた製作あそびの指導計画案や方法について調べる②	グループ
4	保育教材研究③ 鈴木	年齢や育ちに合わせた音楽あそびの指導計画案や方法について調べる①	グループ
5	保育教材研究④ 鈴木	年齢や育ちに合わせた音楽あそびの指導計画案や方法について調べる②	グループ
6	保育教材研究⑤ 田母神	年齢や育ちに合わせた運動あそびの指導計画案や方法について調べる①	グループ
7	保育教材研究⑥ 田母神	年齢や育ちに合わせた運動あそびの指導計画案や方法について調べる②	グループ
8	保育実習の記録① 田母神	いろいろな記録の方法について理解する。	個人
9	保育実習の記録② 田母神	考察の記入の方法について理解する。	個人
10	保育実践力の育成(模擬保育)① 田母神	年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。	個人
11	保育実践力の育成(模擬保育)② 田母神	年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。	個人
12	附属保育園実習① 田母神	学園附属保育園における観察・参加実習を通して実践力を身につける。	個人
13	附属保育園実習② 田母神	学園附属保育園における総合実習を通して実践力を身につける。	個人
14	実習事前指導 矢吹・鈴木	実習に必要な書類等を準備する。	個人
15	実習事後指導 田母神	実習を通して自己課題を明確化する。	個人

期末試験	実技試験	評価方法	受講態度 40% 課題の達成度 30%	授業への貢献 30%

【教科書】	保育実践辞典(鈴木出版)　実習の本(萌文書林) フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌文書林)
【参考書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	特になし		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習指導Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目		1)小坂　徹　・　勝見恵子 1)障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			小坂
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びと保育実習Ⅰでの学びを関連させながら、保育実践力を培う。
実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。	発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術

【履修上の注意】時間割が変更される場合があるため確認すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	保育実習Ⅰを踏まえた実習Ⅲの目的と内容を理解し、保育実習Ⅲの実習施設を選ぶ。	個人
2	保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと自己の課題の明確化	実習記録、実習先評価を通して保育所実習と共通する部分の自己の課題を明確にする。	個人
3	施設実習での目標と課題の設定	自らのレポート課題を基に、施設実習の目標と課題及び内容について考える。	個人
4	実習施設種別毎の目標と課題の確認Ⅰ	同種の実習施設毎に各自の目標と課題について、発表し合い確認する。	グループ
5	実習施設種別毎の目標と課題の確認Ⅱ	「福島県保育実習施設」を基に、自らの実習施設について理解を深める。	グループ
6	体験実習の振り返りと施設実習直前指導	放課後デイサービスでの体験学習の振り返りと直前指導。	個人
7	児童期の子どもの理解と配慮Ⅰ	主に学童期の子どもの発達と関わりについて理解を深める。	個人
8	児童期の子どもの理解と配慮Ⅱ	主に青年期の子どもの発達と関わりについて理解を深める。	個人
9	発達障害のある児童の理解と配慮	発達障害のある児童への関わりについて理解を深める。	個人
10	個別支援計画の理解	個別支援計画の意義と目的について理解を深める。	グループ
11	家庭支援と地域との連携の理解	子どもの家族への支援の重要性についての理解を深める。	グループ
12	他職種との連携についての理解	施設における多様な専門職の役割と連携について学ぶ。	グループ
13	実習直前指導	実習に向けての準備課題の最終確認を行う。	個人
14	実習事後指導Ⅰ	実習の総括と自己評価について個別的に助言を受ける。	個人
15	実習事後指導Ⅱ	自己の課題についてグループ討議と発表を行い、明確化する。	グループ

期末試験	原則としてなし。	評価方法	受講態度 20%	レポート 30%
			課題の達成度 30%	授業への貢献 20%

【教科書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)、福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会)
【参考書】	施設実習(北大路書房)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	幼児期以降の子どもの理解を推薦図書や配布物を通して理解を深める。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所（保育士）9年勤務 ・ 幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	10(80)	実習	2

【授業の概要・目的】
今までの学びと、保育実習Ⅰを踏まえ、保育所に役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの保育や保護者支援についても総合的に学ぶ。また実際に計画、実践、観察、記録などについて取り組み、保育士としての職業倫理についても実践を通して理解を深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容、職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥保育士としての自己課題を明確化する。	発達援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	1.保育所の役割や機能の具体的展開 (1)養護と教育が一体となって行われる保育 (2)保育所の社会的責任と役割		個人
2	2.観察に基づく保育理解 (1)子どもの心身の状態や活動の記録 (2)保育士等の動きや実際の観察		個人
3	(3)保育所の生活の流れや展開の把握 3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携		個人
4	(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2)入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援		個人
5	(3)地域社会との連携 4.指導計画の作成、実践、観察、記録、評価		個人
6	(1)保育過程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価 (2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5.保育士の業務と職業倫理		個人
7	(1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6.自己課題の明確化		個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験		評価方法	課題の達成度 40% 実習評価 60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)・保育所保育指針・保育所保育指針解説(厚生労働省)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員から指示があります。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育実習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目		小坂　徹 知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務			小坂
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	10(80)	実習	2

【授業の概要・目的】
保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解するとともに、保護者支援や家庭支援のための知識、技術、判断力を、実践を通して総合的に学ぶ。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と結びつけながら理解することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援のための知識、技術、判断力を養う。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ④保育士としての自己の課題を明確化する。	コミュニケーション技術 発達援助技術 遊びの展開技術 生活援助技術

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1.児童福祉施設(保育所以外)もの役割と機能 2.施設における支援の実態 (1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子どもの家族への支援と対応 (5)多様な専門職との連携 3.保育士の多様な業務と職業倫理 4.保育士としての自己課題の明確化		個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験		評価方法	課題の達成度 40% 実習評価 60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)・保育所保育指針・保育所保育指針解説(厚生労働省)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員から指示があります。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡